



2020年7月31日

各位

会社名 三菱倉庫株式会社  
代表者名 取締役社長 藤倉 正夫  
(コード：9301、東証第1部)  
問合せ先 経理部長 稲毛 尚之  
(TEL 03-3278-6611)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向及び本日別途公表いたしました「固定資産の譲渡及び特別利益の計上に関するお知らせ」を踏まえ、2020年4月30日に公表しました2021年3月期第2四半期（累計）連結業績予想及び通期連結業績予想について、下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 業績予想の修正

##### (1) 2021年3月期第2四半期（累計）連結業績予想（2020年4月1日～2020年9月30日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益
前回発表予想（A）	百万円 108,000	百万円 5,200	百万円 7,400	百万円 5,700	円 銭 66.35
今回修正予想（B）	102,200	4,700	7,000	31,000	361.15
増減額（B－A）	△5,800	△500	△400	25,300	－
増減率（%）	△5.4	△9.6	△5.4	443.9	－
（ご参考）前期第2四半期実績（2020年3月期第2四半期）	114,978	6,609	9,210	6,945	80.10

##### (2) 2021年3月期通期連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 223,000	百万円 11,300	百万円 15,500	百万円 12,600	円 銭 146.67
今回修正予想（B）	213,000	10,000	14,200	37,600	442.99
増減額（B－A）	△10,000	△1,300	△1,300	25,000	－
増減率（%）	△4.5	△11.5	△8.4	198.4	－
（ご参考）前期実績（2020年3月期）	229,057	12,195	16,822	11,851	137.31

## 2. 修正の理由

(1) 当第1四半期連結累計期間の業績は、新型コロナウイルス感染症の影響により、物流事業で、倉庫、陸上運送、港湾運送及び国際運送取扱の各事業において貨物取扱量が減少したほか、不動産事業で、主力の不動産賃貸事業において一部商業施設のテナント休業もあり、全体に前年同期を下回るだけでなく、期首予想(2020年4月30日公表の予想数値)に対する進捗率が低くなっており、当第2四半期以降も、物流事業を中心に同感染症の影響が残ると予想されます。また、今般、東海旅客鉄道株式会社が推進するリニア中央新幹線計画に協力するため、名古屋駅近辺の当社不動産事業用地の一部譲渡に伴う同社との補償交渉が合意に達し、当第2四半期連結累計期間において、土地売却及び建物の移転等の補償金収受により約366億円の特別利益を計上する見込みであります。つきましては、これらの事情により、当第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想において、営業収益、営業利益及び経常利益はそれぞれ相応の減額修正を、親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益は大幅な増額修正を行うことといたします。

(2) なお、この修正後の通期(及び当第2四半期連結累計期間)の連結業績予想を前期(及び前年同期)との比較でみますと、①営業収益は、物流事業で、前下半期に稼働した神戸・西神配送センター(第2期)及び横浜・南本牧配送センターの寄与による配送センター業務の拡大が見込まれるものの、倉庫、陸上運送、港湾運送及び国際運送取扱の各事業において新型コロナウイルス感染症の影響による貨物取扱量の減少等に伴い減収が予想されるほか、不動産事業で、不動産賃貸事業における同感染症の影響による一部商業施設のテナント休業等やマンション販売物件の減少が見込まれるため、全体で約160億円、7%(当第2四半期連結累計期間では約127億円、約11%)の減収が予想されます。②また営業費用は、物流事業で、貨物取扱量の減少に伴う作業運送委託費等の減少が見込まれるほか、不動産事業で、マンション販売物件の減少に伴う不動産販売原価等の減少が見込まれるため、全体で約138億円、約6%(当第2四半期連結累計期間では約108億円、10%)の減少が予想されます。③この結果、営業利益は、物流及び不動産の両事業で減益となり、全体で約21億円、18%(当第2四半期連結累計期間では約19億円、約29%)の減益が予想され、経常利益は、約26億円、約16%(当第2四半期連結累計期間では約22億円、24%)の減益が予想されます。④他方親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益は、当第2四半期連結累計期間に約366億円の特別利益を計上することにより、約257億円、約217%(当第2四半期連結累計期間では約240億円、約346%)の大幅増益が予想されます。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上